



カメルーン

2013年5月

お問い合わせ

カラム・フォビシー
WWF 中部アフリカ
森林/気候コーディネーター
bfobissie@wwfcarpo.org

はじめに

カメルーンは国土の約 **42%** (2,000 万ヘクタール) が森林に覆われている。北カメルーンには広大なサバンナ地帯、南カメルーンには熱帯の密林が広がっている。

2010 年には、カメルーンの森林の **46%** が保護されていた¹。カメルーンは、生物多様性が豊富で、植物相の多様性ではアフリカで第 **4** 位、動物相の多様性では第 **5** 位にランクされる。中でも、ニシゴリラの亜種 **2** 種とマルミミゾウは貴重な生物である。

得られるデータが少ないことから、森林減少率に関する評価はさまざまである。国連食糧農業機関は、1990～2000 年の森林減少率は **0.9～1%** であると評価した²。しかし、別の調査では森林減少率はもっと低く見積もられており、1990～2000 年の平均年間純減少率は **0.14%** 前後、平均総減少率は **0.2%** とされている³。

森林減少および森林劣化の直接の原因は持続可能ではない農業慣行の拡大、エネルギー源としての木材の利用、伐採事業、社会基盤開発、鉱物採掘作業関連の活動などである。間接的な原因は人口動態や経済的なプレッシャーであり、例えば貧困、貧困削減戦略、土地所有、森林政策、脆弱なガバナンスなどである。

カメルーンの人口は約 **2,000** 万人で、その約半数が農村地帯に住んでいる。先住民または森林に依存する民族は **6** 万人を数える⁴。貧困率は約 **4** 割であり、雇用の **80～90%** がインフォーマルセクターである。これは労働人口の **75%** にあたる。

ガバナンス

REDD+の目標を設定すること、目標に取り組むための法的制度を整備すること、さらにすべての主要な REDD+利害関係者がガバナンスに参加できるように保証すること。

目標

期限を定めた意欲的な REDD+の目標を設定し、REDD+の指針を明確にしているか?

達成事項	2013年2月、森林炭素パートナーシップファシリティ (Forest Carbon Partnership Facility : FCPF) REDD+準備フェーズに 360 万米ドルが承認され、カメルーンの REDD+準備活動が開始可能になった。
進行中	(なし。または、現時点での情報なし)
計画中	REDD+は政府の持続可能な開発目標の達成を支援する開発ツールであると、同国の「成長および雇用戦略報告書 (Growth and Employment Strategy Paper: DSCE) および「カメルーン長期開発ビジョン 2035 (Cameroon Vision 2035)」に明示されている。
ギャップ/ 次の課題	REDD+国家戦略の策定にあたり、カメルーン長期開発ビジョン 2035 に合わせて、これに寄与する REDD+の目標、指標、および活動を明記すること。

制度整備状況

REDD+の管理、調整のための組織があるか? (省庁間の調整、すべての利害関係者の参加が保証されているか、など)

達成事項	環境・自然保護・持続可能な開発省 (Ministry of Environment, Nature Protection and Sustainable Development: MINEPDED) が UNFCCC 関連の活動を監督し、森林・野生生物省 (Ministry of Forestry and Wildlife: MINFOF) が保護地域の管理を管轄する。カメルーンは 2012 年 6 月、法令により REDD+国家運営委員会 (SC) およびその技術事務局 (TS) を設けた。SC は REDD+戦略とプロジェクト/プログラムの実施プロセスの決定のために各分野にわたって活動する。ここには政府の 10 省庁、国民議会、市民社会、先住民族、民間セクター、産業組織、共同体から 19 名のメンバーが集められた。TS はカメルーンにおける REDD+の運営主体である。REDD+プロセスの活動調整はここで行われる。
進行中	両機関は運営体制を整えているところである。SC の第 1 回会議は 2012 年 10 月に実施された。
計画中	(なし。または、現時点での情報なし)
ギャップ/ 次の課題	カメルーンは森林、環境、REDD+活動のために、省庁間での組織の調整を強化する必要がある。MINEPDED と MINFOF、およびその他の主要省庁の間での役割と責任を明確に定義して示す必要がある。このためには、女性や先住民族コミュニティも対象として、信頼性のある利害関係者を参加させる計画が必要である。

法規

該当国は REDD+の実施を支援する法的枠組みを有しているか? (土地の権利/不動産所有権、炭素権に対する特別の注意が払われているか、など)

達成事項	<p>2013年2月、世界銀行の森林炭素パートナーシップファシリティは、カメルーンのREDD+準備フェーズ準備企画書（R-PP）を承認した。国家戦略は、2015年までに整えられる予定である。</p> <p>カメルーンの森林管理および環境管理は、それぞれ1994年の森林法、1996年の環境管理に関する枠組み法によって統治される。これらの法律は利害関係者のニーズを満たしているが、現在までのところ、期待される結果を達成していない。</p>
進行中	<p>1994年森林法は現時点で見直しが進められている。これは、資源の一体的な管理、森林税収の公正な使用、社会的弱者グループを森林地域や林産品の管理に参加させること、森林産品利用による森林地域の貧困削減、先住民コミュニティの権利およびニーズ、およびREDD+の機会の金銭的価値の設定、といった問題に適切に対応できるようにするためである⁵。</p>
計画中	<p>現在までに、カメルーンはREDD+の具体的な規制の枠組みを定めていない。REDD+に関する規制は、カメルーンにおける戦略の策定フェーズの中で導入されることになる。</p> <p>特に、プロセスの管理主体、プログラムへの参加手続き、REDD+プロジェクト/プログラムの公式な承認/認証プロセス、炭素権（権利と義務）、収益配分、REDD+収益の管理、紛争管理、および監視（REDD+レジストリ）といった側面が法規制の対象となる。</p> <p>1996年の環境管理に関する枠組み法の改定プロセスは現在進行中である。</p>
ギャップ/ 次の課題	<p>ガバナンスの不足と法の執行力の弱さが、人的能力および経済的能力の不足と相俟って主な障壁となっている。地方コミュニティが持つ所有権は、コミュニティの森林地に限定されている。カメルーンは、森林（所有）法を改善して完成させ、森林炭素所有権の問題を明確化する必要がある。さらに、さまざまな土地利用政策および慣行の調整も改善する必要がある。</p>

REDD+進捗管理

REDD+の成功は、国が森林の状況と参照レベルに対するREDD+の進捗を追跡し、報告することができるかどうかにかかっている。

MMRV

REDD+に関する測定、監視、報告、検証システムの導入における進捗。

達成事項	<p>MRVシステムはまだ導入されていない。2009年、法律により気候変動観測所（ONACC）が設立された。ONACCの使命は、対策の社会経済および環境インパクトをモニター/評価して、気候変動に関連する悪影響やリスクを防止/軽減/適応することである。</p> <p>カメルーンは過去の（REDD+パイロット）プロジェクトから有益な経験を得ており、森林および森林炭素蓄積について相当量のデータを持っている。</p>
進行中	<p>WWF、およびその他のNGOは、地方コミュニティ内での野生生物監視能力を備えてきている。森林監視/炭素マップ作成に関してさまざまなパイロットプロジェクト・イニシアチブが開始されている。これには新しい記録用衛星画像の整備とフリー・アクセスなどが含まれる⁶。たとえば、地域のFAO-COMIFAC-CBFF MRVプロジェクトは、IPCCガイドラインに従った国家森林監視システムや炭素蓄積推定のための標準化されたアプローチの開発について、コンゴ盆地の国々を支援することを企図している。これは、既存のデータおよび手法の見直し、ギャップの特定、実施手順とコンゴ盆地に合った相対成長式を作成する能力の養成を意味する。</p>

計画中	カメルーンは MRV レジストリを作成してプロジェクトを追跡し、炭素取引を監視する計画を持っている。 技術事務局内の参照シナリオ/MRV 部門は、国家の参照シナリオと MRV システムの構築を担当し、やがては炭素蓄積管理ツールとなる登録管理の責任を持つ。TS は ONACC と連携して作業することとなる。ONACC は炭素蓄積の監視に加わり、登録の管理や REDD+ プロジェクト/プログラムの承認でも一定の役割を果たす ⁷ 。
ギャップ/ 次の課題	ONACC の運営体制を整える必要がある。森林炭素の監視は、ONACC の役割の一つとなる可能性があるが、この場合は TS と ONACC の役割をさらに明確化する必要がある。カメルーンはさらなる MRV プロジェクトを立ち上げて、国家 MRV システムおよび森林監視システムの開発を詳細に報告しなければならない。入手可能な最善のデータおよび気候の十全性を保障する手法に基づいて、森林減少を原因とする炭素排出を監視/追跡するための確実な参照シナリオを策定し、REDD+ TS の MRV の技術スタッフ能力開発に早急に取り組む必要がある。森林/国土利用の変化に関するデータの改善、整理、管理、透明化が必要である。REDD+活動による実際の追加的排出削減を追跡しつつ炭素蓄積を測定するための、一貫した方法論を見出す必要がある。

参照レベル

国あるいは準国における参照レベルを策定したか? どのようなアプローチが取られているか? (歴史的データか、調整済歴史的データか)。

達成事項	(なし。または、現時点での情報なし)
進行中	さまざまな森林 (炭素) マップ作成/監視イニシアチブが進行中である。上記を参照のこと。
計画中	カメルーンは、参照排出レベルを策定中である。これは、調整ファクターが加味された歴史的参照レベルに基づくものとなり、国、準国で導入される。国レベルに期待される結果に準国レベルの固有のダイナミクスが考慮されるように、5 つの農業生態ゾーンについて準国参照シナリオを作成する。
ギャップ/ 次の課題	TS の MRV 組織を確立し、運営体制を整える必要がある。カメルーンは、自国の森林面積を分析し、森林インベントリからバイオマスの概算値を使用して過去の排出量を定量化し、モデルに基づく排出/吸収への道を開く必要がある。

REDD+の遂行

REDD+の遂行とは、(a) 国の森林減少を推し進める要因 (ドライバー) に対処する介入戦略に取り組み、(b) その支出に見合う財源を確保することである。

森林減少を推し進める要因への対処

森林減少を抑制するための主な戦略、プログラムは何か (例: 保護区の拡大、持続可能な農業への移行支援、法的強制力の強化など)。

達成事項	カメルーンの森林法には、国の領土の 30%を永久林地 (DFP) として指定することが明記されている。
進行中	森林減少/劣化の推進要因に関する調査。
計画中	カメルーンは、二方向からのアプローチを通じて森林減少と森林劣化の直接/間接的な推進要因に対応しようとしている。つまり、分野別のアクティビティ (農畜産業、エネルギー、森林) と制度整備活動 (土地利用計画、土地所有権、ガバナンス) への投資である。すべての活動において、DSCE の下でカメルーンが自国に対して課した目標と、5 つの農業生態ゾーンの異なる特性を考慮に入れることになる。

ギャップ/ 次の課題	<p>カメルーンの開発戦略は、次の点で REDD+ と相容れない。</p> <p>(1) 2015 年までに 25% という作付地帯の目標を達成するために、林地が今後も農地に転換され続けること</p> <p>(2) 南カメルーン、東カメルーンの森林地帯に多くの鉱山があり、2001 年の鉱業法で鉱業採掘を他の土地利用よりも優先させていること</p> <p>(3) 社会基盤開発計画が南カメルーンの森林区画計画と重複していること</p> <p>(4) パーム油の生産を 10 年間で 4 万ヘクタールから 11 万ヘクタールに増加すると予測されていること。</p> <p>REDD+ との重複や競合を回避するために、堅実にゾーニングされた参加型の土地利用計画によって、さまざまな分野別プログラムの固有領域をマッピングして公的に認可する必要がある。</p> <p>森林減少と森林劣化の推進要因の評価を実施する必要がある。</p>
-----------------------	--

財源

REDD+ 実施のための支出に対して、国はどのような財源を念頭に置いているか（例: 多国間、二国間、自国財源、自主的およびオフセットのカーボンマーケットなど）。どの程度の金額が約束／移転／拠出されたか。

達成事項	REDD+ データベースによれば、カメルーンは 4,800 万米ドルの資金を受け入れている（他の情報源からの報告）。REDD+ の資金の大半は、特定のプロジェクトを支援するための二国間または多国間のチャンネルから供給されている（GEF、FCPC、EC、フランス、カナダ、日本、デンマーク、英国、ノルウェー、ドイツなど）。約束／移転／支出された財源は明確ではない。
進行中	2013 年 2 月、FCPF の REDD+ 準備フェーズ助成金、360 万米ドルが承認された。
計画中	カメルーンは REDD+ の財源として炭素市場および炭素基金を支持している。FCPF 準備フェーズ準備企画書（R-PP）で認識されている必要な資金は REDD+ 国家戦略の策定のために 2,891 万 1,000 米ドル、パイロットプロジェクトのために 6,000 万米ドルとなっており、これまでのところ、このうち 540 万米ドルは異なる資金提供者から供給される予定である（FCPF、政府基金、民間セクター、WWF、IUCN）
ギャップ/ 次の課題	REDD+ を農業ビジネス、伐採、鉱物採掘よりも優先させるには、資金供給を促進する必要がある。カメルーンは、多額の資金の流れを管理するための能力を向上させる必要がある。炭素に関する支払いは、まだ行われていない。

人と自然のための REDD+

REDD+ 国家戦略は、(a) 社会的弱者を保護し、熱帯林の環境を維持するための適切なセーフガードを講じ、(b) 先住民、地域コミュニティ、地方の貧困層に害を及ぼさないにとどまらず、新たな収入と生計の機会も提供するものでなければならない。

社会／環境セーフガード

国家はどのようなセーフガードを適用／実施しているか（FCPF、UN-REDD、REDD、SES）。セーフガード情報システムが運用されているか。

達成事項	政府は、プロジェクト別のセーフガード活動を国家の準備プロセスに取り入れている。
進行中	（なし。または、現時点での情報なし。）

計画中	2015年までに戦略的環境／社会影響アセスメント（SESA）が準備される。SESAにより、一連のREDD+準備／実施フェーズにおいて環境的および社会的な考慮事項が検討される。
ギャップ/ 次の課題	セーフガード情報システムを確立するため、TSに対する技術支援が必要である。これはSESAの実施、FSC、FLEGT、自主的二国間協定（VPA）およびその他の保護プログラムなどの枠組みによって既に適用中の監視可能な指標の特定と開発をTSができるようにするためのものである。事前リスク評価を伴う社会および環境セーフガードの枠組みを確立する中で、計画の最初の時点から既存の承認された国際協定およびガイダンス（FCPF、UN-REDD、UNFCCC、REDD-SES）が順守され、あてはまる場合は実施されなければならない。

利益分配

先住民、地域コミュニティ、地方貧困層に対する公正な利益分配を保障する財政的メカニズムが存在するか

達成事項	REDD+のための国、準国の資金提供、および利益共有メカニズムは、まだ存在しない。CEDによって、生態系サービス支払い（PES）のパイロットプロジェクトが1件実施され、利益共有に関する教訓が学習／伝達されている。
進行中	REDD+に関するコミュニティパイロットPESメカニズム事業第二号がWWFによって実施されているところである。
計画中	自然／森林資源に対する既存の権利と、公平な利益共有のメカニズムに対するこれらの影響についての分析が実施される予定である。さらに、利益共有のオプションを伴う既存のメカニズム（森林年間利用料または複数の自治体にわたる試み用資金であるFEICOMなど）については、REDD+に対する適切性が検討されている
ギャップ/ 次の課題	森林税体系に、利益分配を反映する。カメルーンは、さらに利益の共有を実証するプロジェクトを立ち上げて、利益共有計画のアウトラインを策定するために役立てる必要がある。先住民の権利に対応する包括的な法律、政策が存在しない。

2015年までのWWF活動（計画）とパートナー

WWFは森林炭素パートナーシップファシリティの準備フェーズプロジェクトアイデアノートおよび準備フェーズ準備企画書の作成に貢献した。

WWFはカメルーン南東部での Ngoyla-Mintom プロジェクト（2011～2016年）のパートナーとして、地元のコミュニティ、政府、Wildlife Works Carbon社と協力している。このプロジェクトの目的は森林管理の実務の改善、コミュニティの森林依存度の減少、利益共有メカニズム構築と能力の養成、MRVに対する技術支援活動の提供である。

今後計画されている活動は、カメルーンにおける準備フェーズ活動と行動計画への支援提供（FPIC、SESA、MRV、利益共有メカニズム、トレーニング、能力養成など）である。

パートナーに関しては、WWFは主としてCOMIFAC、野生生物保全協会（WCS）、ドイツ国際協力公社（GIZ）、世界銀行の地球環境ファシリティ、環境および開発センター（Centre for Environment and Development）、IUCN、FAO、CIFOR、ICRAF、市民社会および地域組織と協力している。

注

1. FAO 2010 The Global Forest Resources Assessment 2010.
2. REDD Desk Country Profile, Cameroon; FAO 2006.
3. 2013年1月現在のカメルーンのRPPを参照
4. IUCN's pro-poor REDD+ project in Cameroon
5. 2013年1月のR-PP、45ページを参照
6. GIZ、GAF、AFD-ASTRIUM、FAO、GEF、JICA

WWFのビジョン
WWFによる世界規模の「森林と気候プログラム」は、人間と自然のために、REDD+が熱帯雨林の保全に大きく寄与し、そのことによる森林の減少と劣化による温暖化ガス排出量の削減にも貢献できるような活動を行っています。panda.org/forestclimate



/ WWF



/ wwfforestcarbon

本書の発行は
WWF-ドイツとの協力の
下にて実現されました。
REDD+関連活動の詳細
はWWF-ドイツのウェブ
サイトを参照してください。
http://wwf.jp



私たちはWWFです
人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球環境の悪化を食い止める様々な活動を実施しています。
www.wwf.or.jp

WWF Registered Trademark Owner © 1986, WWF-World Wide Fund for Nature
(旧 World Wildlife Fund, スイス、クラフ)
真及び偽の著作権はWWFに帰属します。使用には許可が必要です。テキストはクリエイティブ・コモンズのライセンスの下で使用することができます。